

情報モラルに関わる道徳科の授業参観【保護者を対象に】



内容が情報モラルに大きく関わる教材や、重点内容項目を扱う道徳科の授業を、保護者に参観いただきました。友達の意見を尊重しつつ、積極的に発言する様子を参観いただき、保護者からは「難しいテーマでも、自分なりに考えて意見を出し合っている。」「授業で話題になった『約束を守ること』を家庭でも大切にしたい。」といった声が聞かれました。

こども園や中学校との交流の場の設定

こども園の年長児との交流活動の際、重点内容項目に関わる要素を重点に活動を計画、実施しました。また、中学校の先生方に道徳科の授業を参観いただき、授業づくりの実際について共に学ぶ機会を設けました。活動を通して、小学校で大切にしている道徳教育の方向性や取組について、周知を図ることができました。



積極的な情報発信【家庭や地域を対象に】

学校では、どのようなことを大切に、実際にどのように道徳教育を推進しているのか、また、どのような道徳科の授業が行われているのか、家庭や地域の方々に知っていただき、連携して児童の豊かな心を育むために、積極的に情報を掲載した通信を発行し、配付しました。



今日のきらっと☆

道徳では、気持ちの良い挨拶について考えました。言葉で言うだけでなく、気持ちのこもった表情や礼もすると、相手に気持ちが伝わることを話し合いました。  
また、授業の次の日には、全校朝会で、校長先生から「挨拶は、相手の存在を認めてあげるもの」という話を聴きました。伝えても返ってこない挨拶は、相手を無視していることから、伝えたらちゃんと返してあげることが大切だと考えることができました。  
他の先生達からも「1年生の挨拶、良いね。」と褒められています。進んで挨拶をしたり、授業の初めと終わりの挨拶を気持ちをこめてしたりと、挨拶を頑張っている5人にきらっと☆

全校道徳 心の成長を目指して

11月1日(火)の全校朝会の場で、全校児童に向けて、下記にある「“あいさつ”は、相手の存在を認めるための行動」という趣旨の話をしました。

9月の全校朝会では、「一粒のぶどう」というお話で、皆さんに相手のことを思う気持ちについて考えてもらいました。また、10月の全校朝会では、スクールフェスタを通して、相手に自分の思いを伝えてほしいというお話をしました。皆さんの頑張りのおかげで、この間のスクールフェスタは、一人ひとりの思いが伝わったとても良い発表になっていたと思います。  
さて、今月はちょっと難しいかもしれませんが、みんなと仲良く過ごしていくために大事な「相手の存在を認める」というお話をしたいと思います。なんだか難しそうだなあと感じる人もいるかもしれませんが、「相手の存在を認める」

研究のまとめ

授業づくり

- 児童の思考に寄り添い、発問や板書等の吟味を行ったことで、多面的・多角的に考える場面が増えたこと。
- ▼ICTの効果的な活用、ねらいの明確化により、児童がより主体的に「話したい」と思う授業にすること。

教育活動全体で行う道徳教育

- 全職員の共通認識の下、計画や別葉の見直しを図り、学校全体で道徳教育を推進できたこと。
- ▼継続的に見直しや改善を図り、学校組織全体で、児童の心を耕していく意識を更に高め、実践すること。

家庭や地域、幼・中との連携

- 積極的に連携を図ろうと試みたことで、学校の方針や方向性の理解を促すことができたこと。
- ▼児童の心をどのように耕そうとしているのか、双方向に情報交換や協議する場を設けること。

児童の実態や学校教育目標から目指す子ども像を共通理解し、道徳科の授業改善を中核に、家庭や地域と連携しながら学校全体で道徳教育を推進したことにより、児童の意識の変容が見られるなど、研究主題に迫ることができました。

子どもたち一人一人の豊かな心を育む 道徳教育の充実を目指して

今、誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある社会の実現が求められています。その基盤となるのは、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための道徳性です。本県においては、東日本大震災からの復興・発展を担い、岩手や社会全体をよりよい方向に変えていこうとする子どもたちの、豊かな心を育む道徳教育の充実が一層求められています。

そのためには、各学校の着実な取組が必要です。本リーフレットは、令和4年度道徳教育研究指定校である普代村立普代小学校の貴重な研究実践を紹介しています。道徳科を要とした学校教育活動全体を通じて推進する道徳教育の充実に向けた取組の参考として、ぜひ御活用ください。



普代村立普代小学校

自ら考え、判断し、これからの時代を  
他者と共によりよく生きる児童の育成

～ 道徳科を要とした、情報モラルに関する指導の充実を通して ～

pp.2-3

授業づくりの工夫

自ら考え、判断し、他者との関わりを深める指導の工夫等

p.3

教育活動全体で行う  
道徳教育の指導計画  
の改善

p.4

家庭や地域、  
幼・中と連携した  
道徳教育の推進

○自ら考え、判断し、他者との関わりを深める指導の工夫

中心発問を引き立たせる基本発問、補助発問の工夫

ねらいとする道徳的価値に迫り、意図を明確にした中心発問になるよう吟味した上で、その中心発問を引き立たせる基本発問、補助発問の在り方を考えました。道徳教育推進研修を受講した道徳教育推進教師を講師に、発問の種類と目的について共通理解に努め、考えや発言を生かしながら、より児童が自分事として考え、道徳的価値に迫るために、発問をどのように構成するか、検討を重ねました。

※ 児童が、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を身に付ける上で、「情報モラルは情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」であることから、この副題を設定しました。

○ 2年 教材名「黄色いベンチ」(規則の尊重)

T 2人は「はっ」として顔を見合わせて、  
どんなことを考えていたのでしょうか。  
【中心発問】



T どうして「ごめんね」なの？  
(価値に迫るための問い返し)

- C1 どろつけちゃった。
- C2 よごしちゃった。
- C3 よごしちゃってごめんね。

- C4 迷惑だから。
- C5 困っているから。
- T 誰が困っているの？
- C5 女の子とおばあちゃん。
- T 2人だけ？
- C6 たかしとてつおも。
- T 自分も相手も困ったんだね。

○ 3年 教材名「金色の魚」(節度、節制)

T 金色の魚は怒って何を言いたかった  
のかな。  
【中心発問】



T 欲張ったことだけに怒っているの？  
(価値に迫るための問い返し)

- C1 自分でやりなよ。
- C2 調子にのるのもほどほどに。
- C3 欲張りすぎ。

- C1 やりすぎたから。
- C2 おじいさんを危険な目に合わせている。
- C3 おじいさんに迷惑をかけている。

話し合い活動の工夫

他者との交流を通して多面的・多角的に考え、さらに自分の考えを深めることができるように、児童の実態や小規模校という学校の実情を踏まえ、対話の仕方を吟味したり、話し合った内容の板書の仕方を工夫したりしました。



発言の類型化や、効果的な色分けの在り方を検討しました。

ICTの効果的な活用

他教科等と同様に、道徳科の授業においても、1人1台端末を活用しています。道徳的価値に迫るための効果的な活用の仕方を模索しています。

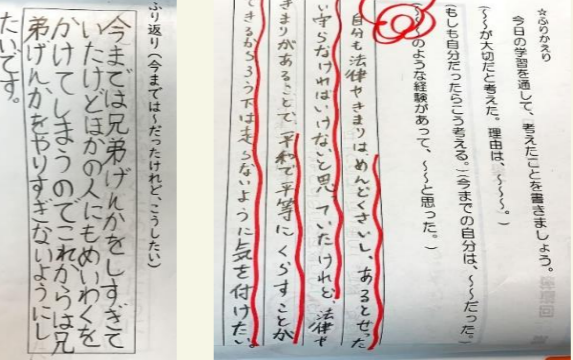
それぞれが「なるほど！」  
と思った考えを表示し、全体  
で共有



時間を確保し、「なぜ  
そう考えたか」と理由  
を問ひかけ、多面的・多  
角的に考えられるよう  
にしました。

○情報モラルに関する指導の工夫

「自己を見つめる」ための工夫



研究主題に迫る上で、児童が「自己を見つめる」ことが特に重要と考え、振り返りの仕方や自分の考えの可視化の仕方について吟味しました。



振り返りの書き方を提示し、過去と未来(授業前と今後)の比較を通して、自分の考えの変容に気づくことができました。

授業前にアンケート結果を提示し、自分の考えを客観視できるようにしました。

○教育活動全体で行う道徳教育の指導計画の改善

全体計画及び別葉の見直し

重点内容項目を「親切、思いやり」、「規則の尊重」、「善悪の判断、自律、自由と責任」と設定しました。

|         | 低学年                          | 中学年                     | 高学年   |
|---------|------------------------------|-------------------------|---|
| 親切、思いやり | ○身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。     | ○相手のことを思いやり、進んで親切にすること。 | ○誰に対しても思いやり、進んで親切にすること。                         |
| 規則の尊重   | ○約束やまわりを守り、みんなが使うものを大切にすること。 | ○約束や社会のまわりを守り、それらを守ること。 | ○約束やまわりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自分の権利を大切にし、義務を果たすこと。 |
| 善悪の判断   | ○生きることのすば                    | ○生命の尊厳を知り、              | ○生命が多くて生命                                       |

校長の方針の下、児童の実態や学校教育目標、目指す子ども像等から情報モラルにも関わる重点内容項目を設定し、全体計画や別葉を見直すなど、教育活動全体で道徳教育を推進しました。

| 学年 | 重点内容項目  | 指導計画  | 別葉  |
|----|---|---|---|
| 1年 | 14 ほかのひとと協力して、命の尊厳を守ること。                          | 14 ほかのひとと協力して、命の尊厳を守ること。                          | 14 ほかのひとと協力して、命の尊厳を守ること。                          |
| 2年 | 15 行ってよいこと、悪いことを見分け、命の尊厳を守ること。                    | 15 行ってよいこと、悪いことを見分け、命の尊厳を守ること。                    | 15 行ってよいこと、悪いことを見分け、命の尊厳を守ること。                    |
| 3年 | 16 約束やまわりを守り、みんなが使うものを大切にすること。                    | 16 約束やまわりを守り、みんなが使うものを大切にすること。                    | 16 約束やまわりを守り、みんなが使うものを大切にすること。                    |
| 4年 | 17 約束や社会のまわりを守り、それらを守ること。                         | 17 約束や社会のまわりを守り、それらを守ること。                         | 17 約束や社会のまわりを守り、それらを守ること。                         |
| 5年 | 18 約束やまわりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自分の権利を大切にし、義務を果たすこと。 | 18 約束やまわりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自分の権利を大切にし、義務を果たすこと。 | 18 約束やまわりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自分の権利を大切にし、義務を果たすこと。 |
| 6年 | 19 生きることのすば                                       | 19 生きることのすば                                       | 19 生きることのすば                                       |
| 7年 | 20 生命の尊厳を知り、                                      | 20 生命の尊厳を知り、                                      | 20 生命の尊厳を知り、                                      |
| 8年 | 21 生命が多くて生命                                       | 21 生命が多くて生命                                       | 21 生命が多くて生命                                       |

11月を重点月間とし、別葉の教材配列を見直しました。

情報モラル教育の指導計画との関連付け

道徳教育と情報モラル教育の年間指導計画を照らし合わせ、双方で意図的・計画的に指導を行い、効果を高めることができるよう、内容や教材の配列を見直しました。

⇒ 情報セキュリティについての理解  
他人や社会への影響を考えて行動する  
【発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響について理解することができる】

【5年生】  
7 「いじめをなくすために」【公正、公平、社会正義】

【6年生】  
7 「移動教室の夜」【善悪の判断】  
8 「温かい行為が生まれるとき」【思いやり】  
18 「おばあちゃんの指定席」【思いやり】  
30 「鬼の組織」【善悪の判断】